

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【 I、III、V 】
2 実施対象者	札幌市立平岡小学校 6学年児童 64名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・6学年の総合的な学習における「進路探究学習」の一環として、夢の実現に向かって努力した人との出会いを通じ、自分の将来についての考えを具体的に深めていくための視点をもつ。 ・自分の考えの変化やパラリンピアンを学ぶ中で、自分自身の人や社会への接し方を見つめ直す機会とする。
5 取組内容	<p>講師の加藤弘さんについての事前情報（視覚障がい、パラリンピック、クロスカントリースキー等）から、今回の交流を通して学ぶべきこと・学びたいことを考え、個々が聞いてみたいことを用意しておく。</p> <p>講演会では、講師の話を聴くことに加えて、児童の質問や疑問を講師に訊ねる時間も設定する。</p> <p>講演後は、教室で感想を記述し交流する。</p> <p>○指導計画 [3時間扱い] [総合的な学習6年「未来の自分を考えよう」全体25時間の23～25/25]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演を依頼する冬季パラリンピアンについての調べ学習を行い、視覚障がいやパラリンピック等についての理解を深める。 ・加藤弘氏による講演会 ・講演会での交流を通して学んだこと、感想等をまとめる。



ゆめっこタイム学習カード
2月5、6日(月)(火)

今日の学習内容
パラリンピアン来校 5年生 2組
加藤 弘さんを迎え入れて

加藤弘さんとの交流を通して学ぶべきこと・学びたいこと

どうして「学生生活しているのか?」(弘さん)
就活準備がどのくらい進んでいるのか? (弘さん)
弘さんに聞きたいこと

どうして就活準備が、いろいろなことに挑戦しているのか? (弘さん)
どうしていろいろなことに挑戦しているのか? (弘さん)
弘さんとの交流を通して、わかったこと・思えたこと

感想や質問があるのにならなくてお話を聞けなかったことに後悔している。弘さんには、色々なことに挑戦している姿が、とてもかっこいいなと思いました。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。

今日の振り返り
もし弘さんが私に何かを教えることがあったら、私はとても嬉しいです。

ゆめっこタイム学習カード
2月5、6日(月)(火)

今日の学習内容
パラリンピアン来校 5年生 2組
加藤 弘さんを迎え入れて

加藤弘さんとの交流を通して学ぶべきこと・学びたいこと

「どうして学生生活しているのか?」(弘さん)
「どうしていろいろなことに挑戦しているのか?」(弘さん)
弘さんに聞きたいこと

どうしていろいろなことに挑戦しているのか? (弘さん)
弘さんとの交流を通して、わかったこと・思えたこと

「どうしていろいろなことに挑戦しているのか?」(弘さん)
「どうしていろいろなことに挑戦しているのか?」(弘さん)
弘さんに聞きたいこと

感想や質問があるのにならなくてお話を聞けなかったことに後悔している。弘さんには、色々なことに挑戦している姿が、とてもかっこいいなと思いました。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。弘さんに聞きたいことは、弘さんがどのようなことに挑戦しているのか? (弘さん)です。

今日の振り返り
もし弘さんが私に何かを教えることがあったら、私はとても嬉しいです。

6 主な成果

- パラリンピックや視覚障がいのことについて、新たに知り、考える機会となった。
- 児童は、社会科で学んだユニバーサルデザイン、生存権などに関連付けて考えていた。
- 加藤さんのお話から伝わる周囲の人たちへの感謝の気持ちやその人柄に触れ、和やかな雰囲気のもと、児童は自分の知りたいこと（競技のこと、障がい者の生活の工夫など）についてお聞きすることができた。興味津々といった面持ちでお話を聴き、積極的に質問する姿が見られた。
- 障がいのある方の生の姿、生の声から、普段の暮らし方を知ることができ、今後は「困っていたら助けてあげたい」という感想をもつ子が多かった。
- 家庭学習への取組に発展も見られ、点字についての調べ学習や、目隠しをしての食事に挑戦する児童もいた。
- 開催間近のパラリンピックには、高い関心を寄せ、見方も違ってきている。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 講師の決定が直前であったため、この学習に臨む準備に余裕をもって取り組むことができなかった。事前にお会いして打ち合わせなどができれば、より有意義な学習の流れを考えることができたであろう。 • 学年便りで保護者の参観も呼びかけたが、当日の参観者は少なく残念であった。保護者や地域住民の方にも参加していただき、児童が家庭等で話し合うことで、さらに学びが深まるものと考え。学校における保護者や地域住民への周知のためにも、日程、講師等の早い時期での決定を願うところである。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。